

地域循環バス等実証事業

地域循環バス等実証事業

背景・目的

本県の陸上交通については、慢性的な交通渋滞の解消及び、県民や観光客の移動利便性の向上を目的に、沖縄都市モノレールや基幹バス等の基幹的な公共交通の整備を行っている。

一方で、基幹的交通が整備されていない地域では、公共交通利用者の減少や、近年の運転手不足等によりサービスレベルの低下などの問題が顕在化しており、少子高齢化等の進展も踏まえつつ、移動不便性の課題に対応していく必要がある。

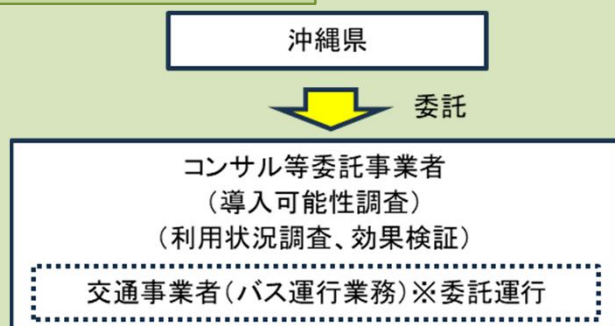
そこで、目的地まで円滑に移動できる環境の構築を図るため、異なる自治体間の交通結節点や地域拠点を繋ぐ地域循環バス等による利便性の高い公共交通ネットワーク(公共交通サービス)のあり方を検討することを目的としている。

事業概要

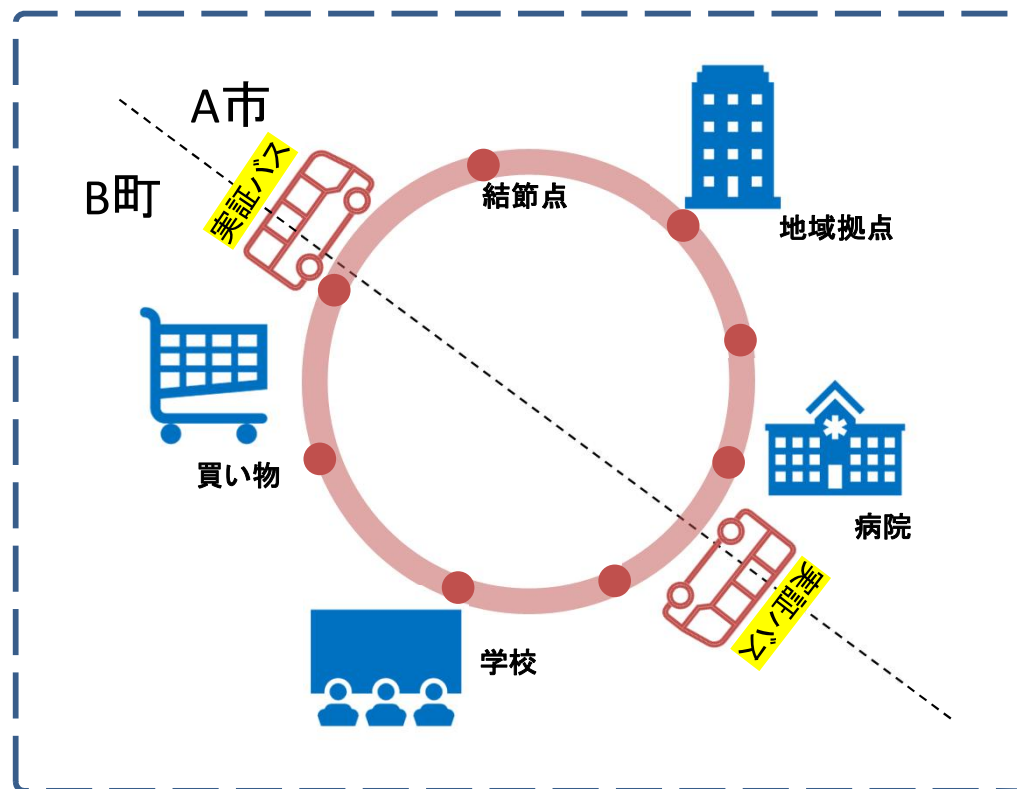
「次世代交通ビジョンおきなわ(仮称)」の策定と合わせて公共交通の将来のあり方の検討を進め、利便性の高い公共交通ネットワークの構築を図ることとしている。

今回、その一環として、異なる地域間の交通結節点や、地域拠点を円滑に移動することができる環境を構築を目的に、地域循環バス等の導入可能性調査を行うとともに、導入可能性のある路線について実証実験を行う。

事業実施のスキーム



イメージ図



地域循環バスの実証実験路線の選定方針

本協議会で報告する内容

ステップ1. 本島全体の基礎情報の整理

地域循環バスの実証実験路線の選定にあたり、人口分布や、目的別の移動実態等を整理し、本島全体の特性を整理

ステップ2. バスによる移動ニーズが見込める市町村間の抽出

移動ニーズ（需要量）及び公共交通の利用実態を整理し、地域循環バスによる移動が見込める市町村間ペアを抽出（10区間程度）

ステップ3. 実証実験を行う条件下に合わせた区間の抽出

地域循環バスは、日中時間帯の運行も想定していることから、日中時間帯でも移動ニーズが多い区間（私事目的による需要が多い区間）等の市町村間ペアを抽出（10区間程度⇒3区間程度に絞る）
※本協議会では、方針までを説明

ステップ4. 具体の経路等の検討

ステップ3で選定した3区間に対して、細かいゾーン（Cゾーン単位）での移動実態、施設分布、人口分布等を用いて、具体の経路や乗降ポイント等、運行の諸条件を整理

ステップ5. 実証実験の可能性の確認

隣接する市町村のコミュニティーバスの連携の可能性、並行する既存路線の影響を確認して、実証実験の可能性を確認

ステップ1～3． 実証実験を行う条件下に合わせた区間の抽出

【考え方】

- 地域循環バスの運行においては、終日の運行を予定していることから、**日中の時間帯（オフピーク）**の移動ニーズも捉えることとして、**私事目的の移動量が多い区間**という視点とする。
- その他、抽出にふさわしい方法を検討する

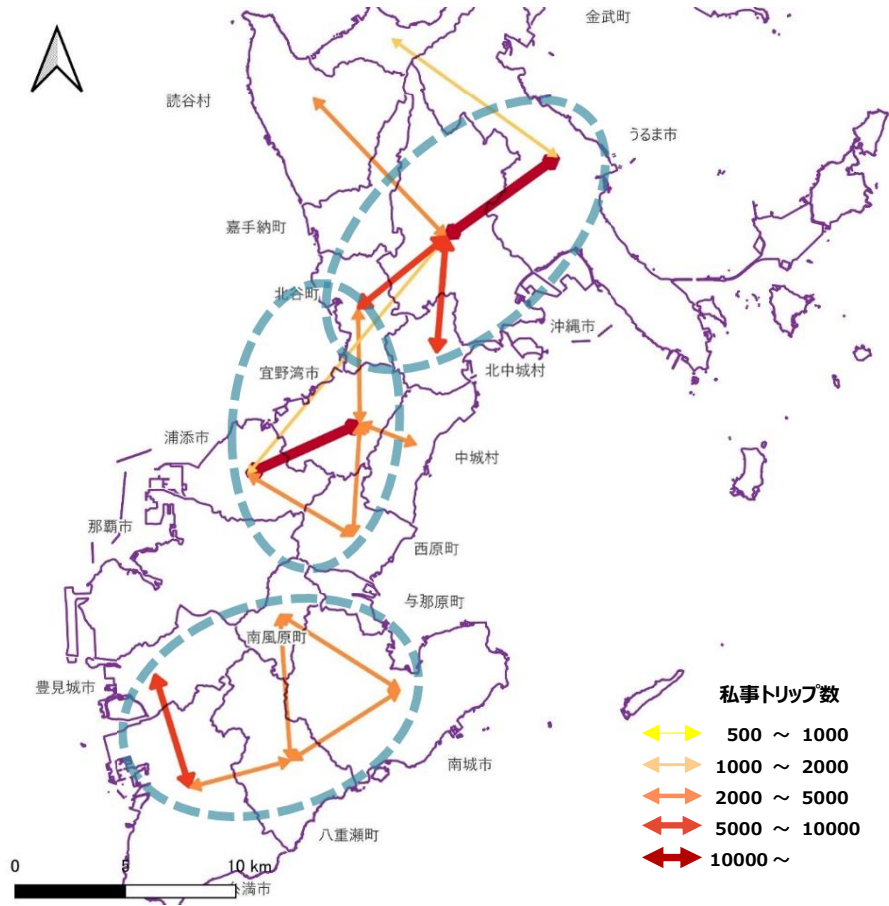
【抽出方針（案）】

- **日中時間帯の利用を想定し、私事トリップが多い区間を抽出**
- **私事トリップの際に公共交通分担率が低い区間を抽出**
- **日中時間帯の路線バスの運行本数が少ない区間を抽出**

私事トリップ数

区間	私事トリップ数
沖縄市⇔うるま市	24,037
沖縄市⇔北中城村	9,371
沖縄市⇔北谷町	6,537
沖縄市⇔浦添市	1,919
沖縄市⇔読谷村	2,263
宜野湾市⇔浦添市	13,076
宜野湾市⇔西原町	3,461
宜野湾市⇔中城村	3,507
宜野湾市⇔北谷町	2,636
南城市 ⇔ 南風原町	2,865
南城市 ⇔ 八重瀬町	3,034
糸満市 ⇔ 豊見城市	7,772
浦添市 ⇔ 西原町	4,559
うるま市 ⇔ 本島北部	1,971
八重瀬町 ⇔ 糸満市	2,326
八重瀬町 ⇔ 南風原町	2,669

出典：沖縄県中南部都市圏PT調査を基に作成



実証実験路線 抽出候補（イメージ）

今後の事業スケジュール

令和8年度中に下記を実施

- 地域循環バスの実証実験の実施
- 地域循環バス実証実験の効果検証の実施
- バスの利用状況調査（バスOD調査）の実施
※調査区域は調整中